学生提案成果報告⑦

栃木市を四季で感じよう～まだまだ知らない栃木市の魅力～

宇都宮共和大学 シティライフ学部 今喜史ゼミナール３年
小暮（こぐれ） 亜衣里（あいり） ・ 中村 万由 ・ 野澤 真奈美 ・ 黒川 奈見 ・ 熊谷 希

【概　要】「栃木市といえば蔵の街」と、栃木市についての印象を尋ねられたら大半の人がこう答えるのではないか。しかし同じ栃木県に住んでいても、栃木市と特に関わりがない人にとっては、何か他に強い印象を残すようなものは乏しいだろう。

誰にでも好きな季節はある。春には桜、夏には花火、秋は紅葉、冬の雪景色など人それぞれで思い浮かぶ情景は異なるだろう。たとえば栃木市の太平山のあじさい坂（写真 1）は、梅雨の時期の風物詩として知られている。本研究では、蔵の街としての印象が強い栃木市について、他にも四季折々の豊かな観光資源に恵まれていることに着目する。そのうえで、これらの資源を「食」に関連させることにより、栃木市の観光を盛り上げるために「食べ歩きのできるまち」という新たな印象付けを提案する。

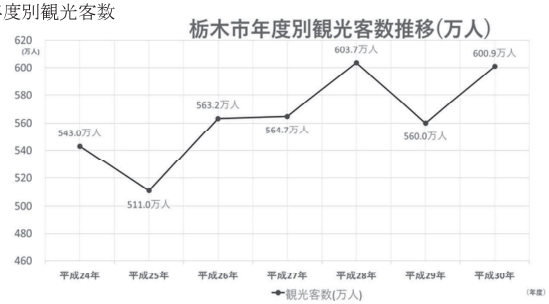
1. 栃木市に注目した理由・経緯

令和元年 10 月 1 日現在、栃木県では 14 市 11 町に 194 万 2313 人の人口が生活している。県庁所在地である宇都宮市は、県の人口の約 4 分の 1 の 51 万 9255 人を擁する都市である。2 番目に多いのは小山市（16.8 万人）、そして 3 番目に栃木市（15.6 万人）が続いている。[1] 東京から電車や車などで約 1 時間の距離にあり、利便性もよく、県内からも観光に訪れる人が多い。また昨年、ゼミ旅行で埼玉県川越市と千葉県香取市佐原に足を運ぶ機会があった。その際に同じく関東近郊の「小江戸」と呼ばれる栃木市も候補として挙がったが、訪れることができなかった。そこで今年は栃木市について調べ、蔵の街で知られている嘉右衛門町が 2012 年 7 月に国の重要伝統建造物群保存地区に選定されたことに注目した。調査を進める中で、この歴史あるまちの魅力を発信し、より多くの人々に栃木市を知ってもらいたいという思いが強まった。

写真１　太平山のあじさい坂
（提案者撮影）

2. 栃木市の観光―現状分析―

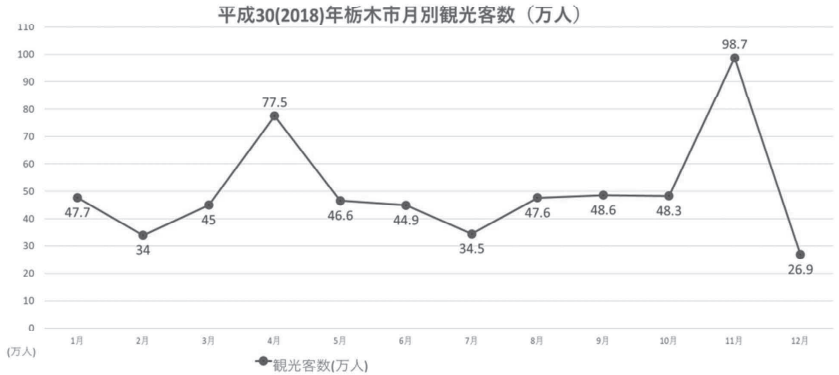
①年度別観光客数



栃木市全体の一年の観光客数は平成 24 年は 543 万 0135 人、平成 30 年には 602 万 8249 人と 6 年間で 60 万人近く増加している。年々上昇傾向にあるが、データを見ると数年ごとに一度、観光客数の落ち込みがみられる。[2]

②月別観光客数の推移

栃木市を訪れる観光客数を月別で比較すると、4 月や 11 月などイベントの多い行楽シーズンには多くの観光客が訪れているが、冬（特に 2 月や 12 月）には他の月と比べ観光客数が少ないという特徴がみられる。[2]



③栃木市の観光の問題点

客観的に見ても市内には優れた観光資源が多く存在しているにも関わらず、一部の市民は、観光資源は何もない、観光に取り組む意味はない、現在はこの程度でよいと認識している。市内には優れた観光価値のあるものが多数存在し、観光の発展の可能性が大きいこと、観光への取り組み方次第で、地域の文化や経済の振興など多面的な効果があり、まちづくりに大きく貢献することを市民一般に周知し、観光に対する理解を深めてもらうことが大切である。

蔵の街、太平山などは魅力ある観光地であるが、現状でじゅうぶんに活かされているとは言えない。また観光客にとって、誰でも知っているような栃木市の土産物や特産品が見当たらないのが実情である。たとえば「とちおとめ」は知名度があるが、栃木市だけの特産というわけではない。太平のぶどうも甲州などに比べて知名度は低く、関東地方でも一部の人にしか知られていない。これらを発掘し磨きあげて観光に供することが、栃木市の観光発展のために必要である。

④市内の観光スポット

栃木市は江戸時代から日光例弊使街道の宿場町として、また、江戸との舟運で栄えた問屋町として北関東の商都と呼ばれていた。今もまちなかを流れる巴波川の岸辺や市中心部を通る蔵の街大通りには、黒塗りの重厚な見世蔵や白壁の土蔵群などが残り、当時の繁栄ぶりを偲ばせている。「蔵の街」のように知名度の高いものもあるが、あまり知られていないが他では体験することができない雰囲気や趣を基調とした観光地も数多く点在している。その中でも、選りすぐりの名所を 3 か所ほど紹介する。

栃木市には、神社仏閣は 21 か所ほどある。その中でも珍しい名物があるのが出流町にある「出流山満願寺」である。ご本尊に弘法大師御作の千手観音菩薩を祀り、壮大な自然の中に鎮座する本殿は神聖な雰囲気と迫力で圧倒される。また「観音の霊窟」と呼ばれる鍾乳洞には自然の力と長い時を経て作り出された「十一面観音像」があり、昔ここに籠った女性が子宝に恵まれたという伝説から子宝と安産、子育てのご利益があるとされている。[3]

栃木市は歴史的な建築物が多いことも特徴のひとつである。実際に現在も使用されている施設もあり

市民の生活の一部として機能している。その中でも「旧栃木病院」と「片岡写真館」は外観がとても美しい。歴史的建築物でありながら色褪せることなく、堂々とした佇まいである。旧栃木病院は万町にあり、大正時代に建築された歴史ある病院である。淡いエメラルドグリーンの外壁のハーフティンバーとなっており、まるで物語に出てきそうな優雅な洋館である。バルコニーもあるため病院特有の閉鎖感を感じることはない。病院ということを忘れてしまうほどの美しい洋館であれば、病院嫌いの方も少しは気が紛れるかもしれない。

片岡写真館は室町にあり、旧栃木病院とは違い赤レンガ造りである。明治時代の建設で、温かく懐かしい雰囲気がある。予約のみではあるが、セピア風の写真など様々な技法で撮影してくれる。館内には昔の栃木市を撮影した写真も展示しているため、博物館のようにいろいろと見聞を広められそうだ。[4)]

表 1　栃木市内で開催される四季折々のイベント[5)]

季 節	時 期	行 事
春	3 月・4 月・5 月	とちぎ山車祭り「春の陣」　ヨシ焼　岩船山クリフステージ うずまの鯉のぼり　蔵の街かど映画祭 ※その他に市内各地でさくらまつりが開催
夏	6 月・7 月・8 月	ホタル祭り　なつこい　サマーフェスタ in いわふね 百八燈流し　つがの里ハス祭り　とちぎあじさいまつり 渡良瀬遊水地フェスティバル
秋	9 月・10 月・11 月	村檜神社例大祭　鷲宮神社例大祭（酉の市） とちぎ秋まつり　出流新そばまつり　太平山もみじまつり
冬	12 月・1 月・2 月	どんど焼き　光と音のページェント よさこい藤岡パレード

（提案者作成）

3. 観光プランの提案

これまでで現在栃木市には多くの観光施設があり、季節に合わせた多彩なイベントが開催されていることがわかった（表 1）。そこで私たちは、季節を感じながら観光を楽しんでもらい、一年に何度も栃木市を訪れてもらえるような観光促進策として、「食」に着目した観光プラン「食べ歩きのできるまち」を考案した。これは、初めて栃木市を訪れた人に向けては市内を巡るひとつの手段として、また栃木市を訪れたことのある人に向けては魅力再発見の足掛かりになれば、という目的で提案するものである。

＜観光プラン・食べ歩きのできるまち＞

まちを歩きたくなるためには、まち自体を物理的に整備するだけでなく、まちでさまざまな活動ができることが必要である。そのひとつとして、本研究では「食べ歩きのできるまち」を提案する。

食欲は人間の三大欲求のひとつであり、食べながら歩くことは大きな楽しみになる。観光地や行楽地では、その土地の名物の食べ物、ハンバーガー、アイスクリームやソフトクリーム、さらにはたい焼きや団子などの和菓子まで、多くの食べ歩き食品が売られている。もちろん、椅子に座って食べる人もいるが、歩きながら食べている人も多い。まちなかで食べ歩きをすることは、現在では当たり前の光景であり、食べ歩きができるまちは、観光スポットともなっている。 栃木市には、多くの「食」があるので「蔵の街」のほかに「食べ歩きのできるまち」として売り出すこともじゅうぶんに可能と考える。また、統一された伝統的な景観を活かして、SNS 映えを意識した商品の開発もひとつの手段である。巴波川沿いなど、まちなかのいくつかのゾーンを「食べ歩きゾーン」として指定し、じまん焼きや団子（栃木市には多くの和菓子屋があるため）などを食べながら歩きやすいようにすることが考えられる。そのためには、ごみ箱等の配置や、気軽に座れるベンチの設置等が必要である。当然ながら、食べ歩きに適した食品をこれらのゾーンの周辺で集中的に販売することも必要になる。

さらに、栃木市の名物を食べ歩きできるようにして販売すると、市の宣伝も兼ねることが可能である。単にパンなどに挟んで食べるのではなく、そのまま手に持って食べられるような商品を開発できれば、「食べ歩きのできる〇〇のまち―栃木―」という新しいイメージを作り出すことができる。たこ焼きや焼き鳥などは食べ歩きが容易であり、また、ピザも食べ歩きできるものが開発されている。 食べ歩きは菓子類だけでなく、幅広いメニューが作れると考えられるため、栃木市の季節ごとの特産品を活用したオリジナルの食べ歩き商品の開発やコラボ企画など多くの可能性がある（表 2）。

表 2　栃木市の主な農産物
（提案者作成）

季節	食材・食品
春	イチゴ
夏	トマト
秋	ぶどう
冬	出流そば
通年	もやし

⇒　季節ごとの「食べ歩き」
幅広いメニューの可能性
↓
SNS 等での魅力発信
↓
観光客の増加

4. まとめ

本研究では、栃木市にこれまで以上に観光客を呼び込むためには何が必要なのかを考え、観光プランの提案を行った。現状では一年の中でも季節により観光客数の波があり、冬季の集客が少ないことを問題点と考えた。そこで栃木市にもともと存在する観光地を活かしつつ、地域の特産品を活用した商品を開発し、食べ歩きやすいように提供するなど工夫をすることで、新たなニーズの獲得、幅広い層の観光客の呼び込みに繋げられると考えた。季節限定の商品等の開発や、SNS での宣伝・情報公開を行うことによって、国内に限らず世界に向けて、栃木市をはじめ栃木県の名前を多くの人に広められ、栃木県に観光客を呼び込むきっかけとなり、県全体が活気に溢れていくことが期待される。

【参照 URL】※いずれも 2020 年 12 月 21 日時点の情報に基づく
1)　栃木県ウェブサイト「県政情報」より「人口・面積」
http://www.pref.tochigi.lg.jp/c05/kensei/aramashi/sugata/jinkou-menseki.html
2)　栃木県産業労働観光部観光交流課「平成 30（2018）年 栃木県観光客入込数・宿泊数 推定調査結果」
http://www.pref.tochigi.lg.jp/f05/kanko/documents/documents/irikomi.pdf
3)　出流山満願寺　https://www.idurusan.com/
4)　栃木市観光協会「片岡写真館」　https://www.tochigi-kankou.or.jp/spot/kataokakinenkan
5)　栃木市観光協会「年間行事一覧」
https://www.tochigi-kankou.or.jp/event-schedule